アクティブ・ラーニング

授業改善の重要な視点はアクティブ・ラーニング。指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら、子供たちの思考を深め発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を追究しよう。

アクティブ・ラーニング（以下「ＡＬ」）の目的

児童生徒が主体的、協働的な学びを通して、社会で通用する汎用的能力を育てること

ＡＬのもとになる学び合いの概念

自己との対話を重ねつつ、他者と相互にかかわりながら、自分の考えや集団の考えを発展させて、共に実践に参加していくこと

話し合いができる学級をつくろう

授業のねらいに合った話し合い方を工夫。

グループ単位の話し合いから学級全体の話し合い、さらには指名なし討論を目標に。

自分の意見を言うだけでは話し合いではない。他人の意見を聞いて批判・検討できる力をつけたい。

自分の意見をまとめるために、思考ツールをつかって考えを可視化することが効果的。

【思考ツールの例】

・付箋やカード…意見を出し合って、整理するのに便利。声に出して発表できない児童生徒も、カードに書くことで学習に参加できる。

・Ｙチャート・Ｘチャート…視点を決めて整理するときに便利。社会見学や観察等で、視覚・聴覚・触覚に分けて書くのがＹチャート、それに自分の考えを加えたのがＸチャートだが、ねらいに応じた独自の視点を設定してもよい。

・ステップチャート…手順や計画を考えたり、自分の主張の順番を考えたりするときに便利。

・イメージマップ…考えを広げたり、多様なアイディアを出したりするのに有効。

課題の設定の仕方が重要

児童生徒全員が見通しをもつことができ、多様な考えが出るような課題を設定したい。

課題解決学習、仮説実験授業のような課題の方が、主体性や協働性は高まる。

- 平行四辺形の面積の求め方を考えてみよう。
- 信長、秀吉、家康の誰が一番いいリーダーか決めよう。（ディベートのテーマ）
- 自分たちの合唱の録音を聞いて、表現の仕方を話し合ってみよう。

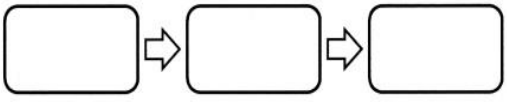
授業の進め方・学習方法の工夫

「話し合い」だけがＡＬではない

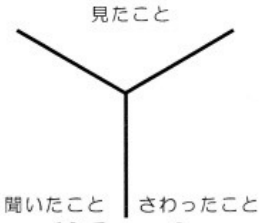
例えば次のような学習方法も、意欲的な活動につながる。（上の学年で行なってもＯＫ）

- 小学校㊦　ＭＤ法
- 小学校㊥　ＫＪ法
  パネルディスカッション
- 小学校㊤　ディベート
- 中　学　校　ジグソー学習法

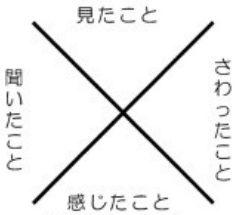
（詳細は本やＷＥＢで調べてください。）



ステップチャート



Ｙチャート



Ｘチャート

「ふり返り」を大切に

ＡＬで自己の変容を実感するために特に学習の「ふり返り」が重要である。

→「スタンダード」のページ（P．７）の「まとめ」、「振り返り」を参考に。

◆ ＡＬ実施のポイントは、とにかく埼玉県教育委員会作成の「アクティブ・ラーニング学習観　６則」を見て、やってみること。「６則」にも「まずできることから始めることが重要」とある。